



教育長 田中 庸寛

今年度、夏季休業期間の短縮に伴い、例年より2週間早い2学期のスタートとなりました。コロナ禍において「いつもとは違う夏休み」を余儀なくされた子どもたちですが、休み明け、各学校・園では、一人一人の心身の状態を丁寧に見取りながら、「心のケア」に努めております。また、厳しい残暑が続く中、感染防止対策に加え、熱中症予防についても同様に対策をしております。

現在、学校は、「感染リスクを可能な限り低減しながら教育活動を維持する」という極めて困難な課題に直面しています。言うまでもなく学校教育の本質は、「学び合い（交流）」にありますので、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せない中では、今後も長期的な対応が強いられることが想定されます。このような状況において最も危惧するのは、子どもたちの身体的・心理的負荷（ストレス）です。「with コロナ」にあって、学校が疲弊しないためには、コロナ対応の「持続可能性」が鍵となります。子どもたちには、感染防止のための基本的な行動（「手洗い」、「マスク着用」、「3密回避」）を定着させながら、一方では、過剰な対応によって生じる弊害にも目を向けることが肝要です。このたび、教育委員会では、感染に関する最新の知見や国・県の「通知」等を踏まえ、『学校再開ガイドライン』を改訂し『新たな学校生活スタイルガイドライン』としました。各学校では、本ガイドラインを参考に、自校の生活様式について見直し、「感染リスク回避」と「教育活動の維持」の適切なバランスを図りながら、長期的な対応に備えております。

さて、年度中盤を迎え、今月は「学習評価」について少しお話をしたいと思えます。学習指導要領改訂に伴い、学習評価の在り方が大きく改善されました。観点別学習状況の評価や評定には示しきれない子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施するものとされています。これまでと大きく異なるのは、観点別学習状況の評価が従来の4観点から3観点（①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に取り組む態度）に整理されたことです。各学校では、全教職員で十分に共通理解を図るとともに、子どもたちや保護者の皆様に様々な機会をとらえて丁寧に周知・説明を行うなど、全校体制で、妥当性と信頼性の高い学習評価の実施に努めてまいります。

コロナ禍の中ではありますが、子どもたちが、学校や地域社会のあらゆる場で、より豊かで充実した学びができるよう、保護者・地域の皆様には、今後とも、ご理解とご支援をたまわりますようお願い申し上げます。